

MOUSECOMPUTER PC

『 チャートはかく語りき 』

事実など存在しない、存在するのは解釈だけである。

FX トレーダーG・SHOP

2012/04/01

FX トレーダーG・SHOP

目次

著作権について.....	
1. チャート解析・基本カリキュラム	
2. 『トレード をする』ということとは？ トレードの定義に対してのひとつの提案	
3. 『トレード 』という“仕事” のやり方	
4. チャートを読むための文法の習得	
5. ダウ理論を使って実際のチャートを分析する簡単な具体例.....	
6. ダウ理論で考察するために必要なツールとスキルとは？	
7. ダウ理論トレードに必要なスキルを習得するための学習カリキュラム	
8. 波の定義と習得方法	
9. レジスタンスラインとサポートラインの定義と習得方法	
10. 水平線の役割と種類、その習得方法.....	
11. エントリーする場所は、“押し目買い” “戻り売り” “波の高安ブレイク” の3ヶ所.....	
12. 押し目、戻り目の値を探る.....	
13. フィボナッチリトレースメントの使い方.....	
14. 現在値がどういう値なのかを複合的に解釈する（環境認識）手順.....	
15. 各時間足ごとの波（ダウ理論）を複合的に考察する.....	
16. 押し目、戻り目での具体的なエントリー方法	
17. 長期足での押し目、戻り目ポイントでの、短期足を使ってのスキュルピング方法	
18. 押し目、戻り目ポイントでの、大きく伸びるタイミングの計り方.....	
19. エグジット（利確ポイント）の決め方	
20. 損切りと逃げるポイントの決め方.....	
21. 押し目、戻り目での具体的なエントリー方法2	
22. ダウを使ったスキュルピング・トレード.....	
23. 練習量とメンタル	
24. 練習問題.....	
25. ダウ理論・理解力チェックシート	

1. チャートを読むための基本カリキュラム

【本カリキュラムの基本コンセプト】

- ① 通貨ペアに左右されない解析ロジック
- ② 全ての時間足に共通する解析ロジック
- ③ 本質的かつ普遍的な永続する解析ロジック

これら3つを念頭に置いた解析方法です。しかし、取り立てて新しい画期的な方法ではありません。100年以上も昔に称えられたテクニカル分析の古典であるダウ理論を柱とした、まさに王道を行く解析論です。特別な手法でもなく、オリジナルのテクニカルもありません。しかし、自らの力でチャートを読み、現在値から分析し、今はどうすべきなのか？売るのか、買うのか、待つのか、静観するのか、という行動を『決める』ことができるようになる、という解析方法です。

これは、一貫性のない部分的な“手法”ではなく、チャートを解析するための“基準”です。別の言い方をすると、チャートを読むための“文法”です。私たちは、単語を知っていても、この文法を知らないと、書かれている内容の半分も理解できません。そして、物語の内容もよくわからないので、当然現在の展開から推測して次の展開を予測するなどという高度なこと？もできません。しかし、一貫性のある文法をもとに過去チャートを読むことができれば、その文法によって現在の話の進み具合からほんの少し先の話の展開がわかります。しかも、その展開のストーリーパターンは全て過去チャートに公開されているのです。私たちは、過去チャートを読むことができるようになることで、チャート・ストーリーの全てのパターンを知ることができます。そして、そのストーリーは100年も昔から現在まで繰り返し使われているのです。昔の子供向けのアニメ番組も、いや、あの水戸黄門もびっくりです。筋金入りのワンパターン・ストーリーです。たまに少しアレンジされた“もうひとつのエンディング”が用意されているくらいです。しかも、この特別なエンディングパターンでさえ過去に公開済みのものばかりです。

チャートを読むための一つの“文法”を習得し、過去チャートを何度も読んでストーリーを覚える。そして、現在の値から今の物語の進捗を知り、次の話の展開を想定してトレードのシナリオを決める。その時に、“もうひとつのエンディング”の場合のシナリオも想定しておく。そして、決めた通りに行動する。この繰り返しこそが、このレポートが目指すトレードです。

自分で決めたシナリオ通りに行動する。このことが、実に地に足が付いた行動であり、自分自身が納得のいく行動であると実感出来ることと思います。そして、自分自身で考え、決められるトレーダーこそ、本当の“常勝トレーダー”の姿であると信じております。メンタル的にも技術的にも、自らが成長できる、成長し続けられるトレーダーの育成に関与できることを願っております。

これが、このレポートが目指す理念であります。

2. 『トレードをする』ということとは？ トレードの定義に対してのひとつの提案

【トレードのイメージ】

トレードを行っているときのスタイルというか、どんなふうにおこなっているのかを具体的にイメージすると、どんなやり方が思い浮かぶでしょうか。大まかですが2つのやり方がイメージされると思われます。一つは、ローソク足を1本1本陽線陰線とか、直近の波を見て上とか下とかを、一つの時間足チャートだけを見て流れをひたすら追いかけるスタイルです。もう一つは、チャートを少し遠くから眺めるようにして、ある根拠に基づいた上で、ここで止まったらエントリーして、その後ここで止まったら利確しよう、というあらかじめ具象的なプランを立てそのプラン通りにチャートが沿ったときだけトレードをするというスタイルです。

あなたはどちらのスタイルでしょうか。初心者にありがちなのは、目の前のローソク足や短期足の波をひたすら追いかけるトレードです。この行為自体は間違っているわけではありませんが、問題は、このスタイル単体でトレードを行うということです。目の前の動きから得られる情報は、断片的な情報でしかありえません。エントリーを決めるための情報も利確するための情報も、20%しかないのです。ですから8割は負けます。ビギナーズラックとはこの20%で勝てた場合のことです。

では、残り8割の情報はどこから得ることができるのでしょうか。この答えがもうひとつのスタイルです。つまり、どこでエントリーしてどこまで狙うか？ということがあらかじめ知っておくことです。これが分かっているならば、もう追いかける必要はなくなるので待ち構えて想定通り止まったらエントリー止まったら利確を繰り返すだけです。

しかしこの条件には“想定通り止まったら”という不確定な要素があります。そのままでは当たり外れがフィフターフィフターとなり確率が悪いですが、ここの確率を上げるために、直前のローソク足の終値を基準にし、止まる予定の“値”を超えたか超えないかを見ます。さらに、短期足で上下の流れが反転するかどうか？を確認します。つまり先ほどの“目先を見て追いかける”という要素を取り入れることで確率を上げることができるということです。

このようにあらかじめ描くシナリオ（設計図・図面）が実際のチャートにどれくらい沿っているか、というところをポイントにして、少し先のチャートの動きを短期足のダウを見て、言い当てる確率を上げていくことで、トレードを行うための重要な情報を得ることができます。

そして、どこからどこまで動くか、ということを知った上でチャートを見れば、どのタイミングから何をすべきかということが明確になります。確かに途中からの場合は最初の起点から動いてしまっているのがゴールまでは狙えないかもしれませんが、短期足を使って、同様にシナリオを描き待ち構えてのエントリーは可能です。

まずはこの80%の情報を得られる2つ目のスタイルを習得すれば、8割は勝てるということです。その後、残り20%の目先からの情報も得られるようにすれば、より高勝率なトレードが目指せます。

トレードとは、チャートを読んだ上でその少し先のシナリオをあらかじめ想定できてから行うものである。つまり、想定できない場合は行えないものである。ということです。当たり前のことですが、上記のトレードの定義から導き出される理にかなった提案だと思われます。